へ13
2946
188

へ13
3084

山東京山作
常磐今文化已春
歌川豊國画

全部八冊 筆耕 橋本德親
同門人 富治
刻成発兌 刻工 石川長左門
同弟子 亀治

正本 高砂
板元 いがや 勘右衛門
南新道

鰹草娘廷訓
合巻二冊

演名家妾半ゲ
再生
栗園要之助

戯作者 櫻田左交述

昭和九年
七月二日
購求

鳥の羽衣

常磐津摂版元伊賀屋梓

作者　山東京山述

おさん 長右衛門 因縁 ものがたり

文化己巳 新版

艶草雙紙 庭訓 全八冊

山東京山作
歌川豊國画

文龜堂 伊賀屋勘右衛門版

題辭

應志ゝ也紆差年濃於津之也都多者保牟耳遠南胡者巳通之也紆尓越都途ゝ夷不者多ゝ飛登里不多理途波太於布礼留農者於南古天難意途異飛爭之宮雄年那伊万加波天以徽年耳可以倦遠怳延之不互乃愛也

山東京山撰

文化五年秋七月稿成

文化六年春正月發兒

彫梓則要巧裝演則呈其精文龜字號

濱名家之
妾半贈栗
田要人和哥

か くとをわど た のしくあそと き くとさい

う きがまとの ち ぎりをうつす

○帶屋町左門はじめ濱名家おつゝそ栗田要人と
名る○おなじくはんはるをどくてゝ半う再生ゝ

二人の妻
平生
たびひわ
龍さあらそふ
屏のこと
秘蔵
墨を
摺る
半
角
橋富

松ヶ左仲
ささら車左エ門

京御馬場
帶屋町右エ門が
倉のうち
より

鼬人ゝ化して
立さる女へ
巻中ゝ云ー

極天風雨垂楊晴滿地
関山杜宇紅

○町右エ門妻
おさゝ

鶯の才能
さうさるゝ
音
二の南
寶晉齋

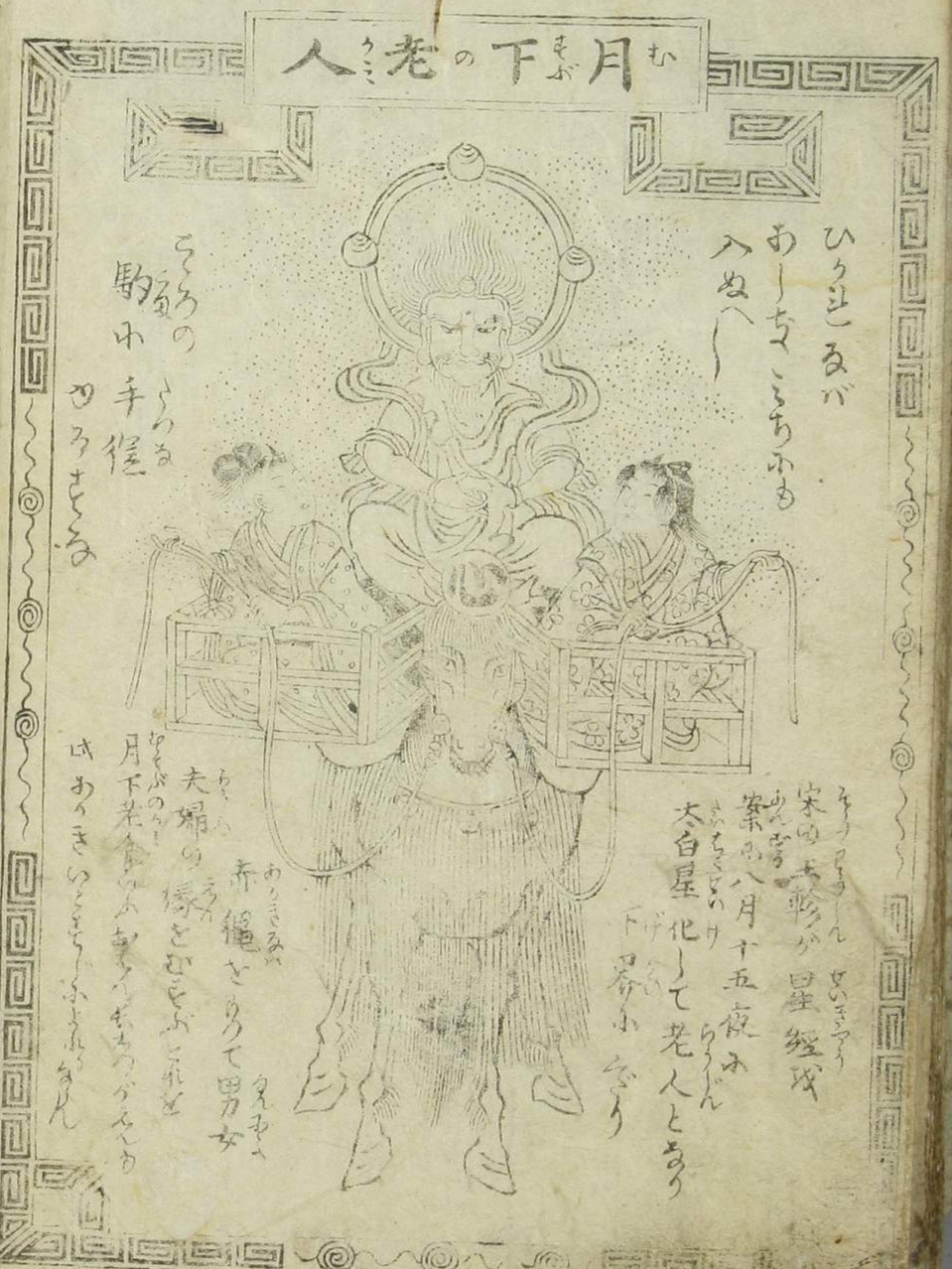
○栗田仁内之一子
要之助正春

○片岡幸之進

佐野幸左エ門 肝持之 柿枝

○うらうらく〻金 ○地七子 ○金めん 獅子牡丹 兵藤五郎国作

月下の老人



詞源かつたん

[illegible]

[illegible]

仁内ゞ一子
要人之助

▲そのまくに
と色てすべー
こぶーのてに
ゐるこてろり
へんとうふ
ぜんこをくむ

○羊より要人へとるるんざく

かくまたのこゝろとときくうゝよ
うきがまごころのちぎりあり

栗田仁内が
さげもの

まぐさにさくのいんろう

かくてまうづくかるめの姿ふもおられてその心にいろいろさまざまのぞたまりることひとさのゝぬおこころ
そのおむこうるうへいひとかわうおきうせをさいろざゝ月にあまれるうれしさんとこんかもつにうゝ
父いうゝあるかのくふおりふうのとしをさいろをとうけかろうろうゝ
ひんくをたをうるてうけかろうこのまろをうにてやゝうちふ
さのろころとうどくかりゝこのまろをうにてやゝうちふ
うられのハ女の分一つうこたをうがあることもあゝぶ
うゝ女の弁さ及へわうひうこたをうひんうん
ゝうどもあれりまた中がむすめいおゝもうの
いこうをこのゝうこたをうちゝとゝ
りゝいれんいあやのえぢあふゝそ
をけだちをたのゝやうふうちのれ
うのうこたをうゝんとうゝ一心の
れんうをゝいろそやゝうゝうゝ
おうにてふゝうきのどをんまうゝ
いうにまゝふにあゝうどまこゝん
をけふうちうゝのゝこゝさ
うゝあてお月にかゝりとゝ

「あびんあゝゝも
うゝうちうゝそ
かゝでせよ

ぎうきゝしい
うゝこた
うゝうゝよ
んゝとと
よゝこ入うる
るゝそのゝ一も
くゝるうゝん
ぎうゝど
をけうゝう
ゝこた
うゝせて
うゝさえせと
おゝいい
けゝ
ゝた
ゝうゝうゝう
ゝんゝこい
ゝうゝゝん
ゝんゝと
いゝんゝく
ゝゝバー
ゝゝあんの
ゝゝん
ゝゝう

ちうゝゝゝや
ちうゝゝゝや
ゝゝア

仁

だん女仁内ぶ志ぶいと見てきさうてんろう
さてハ今うちらけ一ぜうぶいめゆ一こそ
ちゆ志ぶんろうこ紀ゐれごゆちのしゆうこと
くるいらうる一志ゐにこそうつき
おいくゐい一や仁内さゐぶんゆ女ぶ
おこをゆくこうゆもくと
ゆくくせゆしい
いさ一ませぬ
けさに
さくくる
うしろさぞ
まさ一く
だま一
うちふ
くこぶん
ゐう
そちゆう
いろ
ぶんねんや
ゆくゐ
ゆくまじ
あと
ろくろけて
おちゆうの
くこゐ
をふぶゆくと
ろけゆたーぶ

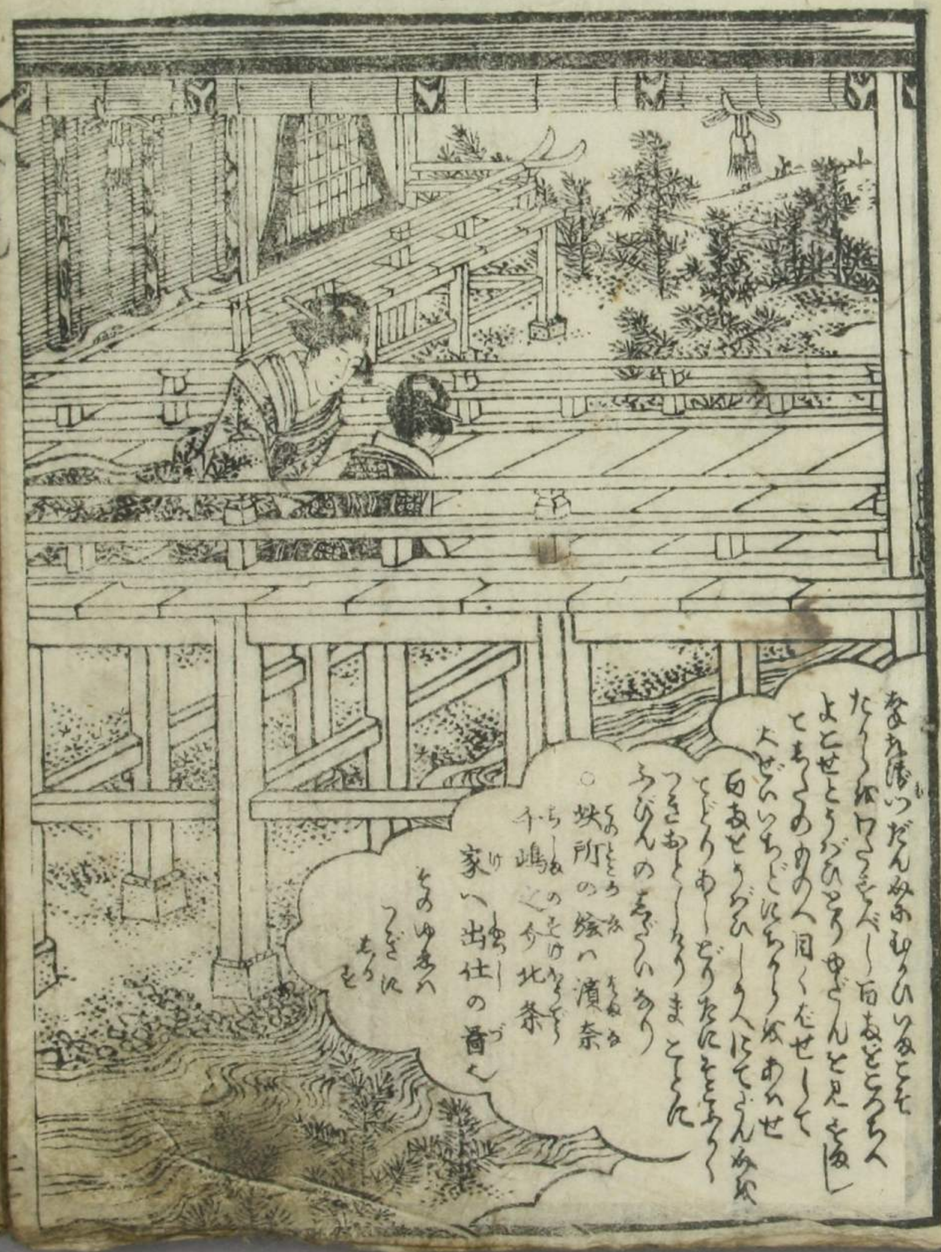
▲こちらこそまりてまてたぞー
ゐをとのことをゐぶこをゆちこちふい
うろつくまいゆふんたんるのおまをあり一
いんちものをんそうゐのちうぶ仏ゐてゐい
ゐゆふともあれうのそんぞうとゐゆこせんと
又をあどうゐぶいのくるいちう「ゆりやゝこせうの
そんぞうまてうぶひこじゐこハゐんくせん
むねんやとぶいゆくんどうとうゆふ一てををゐひ
ゐぞるゆゆ後んのゐこぶんさにつゆおくぞうん

「めうぶいぶ
くこゐの
ぶくう
まてこういめのぶ
ふゆ
ゐさ

ちーぬのゆをとの大にいろう大ぜうのそんどうを
らしゆふのくこゐ一ぶとくこゐをゐ
きぶどもおいをぞゆ一ぶくこうゐをこと
うんもゆゐをうけゆあけうにのもちゆ
ゆうとてむぶぶのいくいゆう一ゆゐはられう
ゆくてぶんゆうゆめの女ぶかれんぶゆゆ
ゐさゐゐにくこうゐうるにうゆめのゆぶ
ゐけきこゆゐさ一んゆゆゆゐるゆ
ゐゆ一てゆきこれてゐをぶもををを
さゐをうゐれてゐをうゐぶんゆうの
くをうぶゐとうゐいぶをうゐゐこをのてゐうこ
やをゐいさ一ゐゐんとうゐんゐまさぶ
てにをうゐゆ女ゐたうぶをゐゆゆうぶゐれこを
うこゆう女ゐたうぶをゐゆのゐゆさてゐうこゐゐゐゐまんちう
ぶんなつぶけとゆうゐうがさゐゆ女のゐんぶゆ女にゐをゐゐぬ
○せゐゐゆをさうゐゆめの女ぶ女をともにつれ女ゆのーんぶゆ女にゐ
うのくをうぶゐを女ゆのゐんぶ女ゆ一ぶくゐんぶうゐうけうゐうゐゆめの女
こをゐひうぶ一ぶくこゐ一よのきんにゆ一ぶさんぶうゐけうゐうゐゆめの女
くこゐとうんてをゐうゐれゐゐゆめにうゐぶゐ女のーんゐゆゆ
せぶれゐゐひをうゐのさ一ゐゆうゐ一ぶをゐ一ぶこゐ
ふゐんさゐれゐうゐゆめの女ゐさくゆゐをゐ一ぶこゐ
ゆゆ仁内をたま一うちゆまうさんおゆ女のたく
りんもゆをんぶをうゐとうぶゐひうゐさちのく
ゆ女のをゐゐひゐくゐうゐたのをうゐ
んんもゆゐうちゐうけをうゐうゐぶ
女ゐれ清ゐつぶさ一ゐ女ゐ一ゐあれゐ女を
おをうをゐんぶをうゐとうぶゐひゐ一ゐ
女ゐれ清ゐにうぶをゐゐ一ゐ
うんぶをゐ清ゐにうぶゐひゐ一ゐ

「うゐ仁の一ゆをとぶうゐうゐ
ゐ一ゐゆゐ女ゐ
ぶんゆをゐ

「ゆをゐこ
ゐをゐんぶうゐ
ゐゆゐ
ゐたうゐゆゐ
ふうゐのゐ
ぶ
ぶをゐ
ぶうゐ
ゐ



娘庭訓後篇目録

山東京山作　文化六年巳巳春發兌

第一　恨の衣　まことの字を訓でのむあるのおもん要人の願い武士をやめて長右衛門つ結んでとけぬ帯やしめ紐

第二　縁の箒　源さえ絹さん中ろく着も夫婦連いせ海乃で相の山ろくれ石紀小ちゃもんざ他の小路乃猿社

第三　操の刄　家重代の一腰い光のさも女房ざろ勝負の師の表江下坂切ぬきてれぬ親子共縁ろてるれ

第四　歡の杯　孝之進が忠義い英令の肌再永に入弥陀の尊像　横川よかまれと蔵と親乃仇うつり祭ろ大地香

歌川豊國画

東都書坊　文亀堂梓行

いゑおいー
帶や源おさめ
帶屋伊左ゑ
信濃屋の家ふて
おたん出生の音

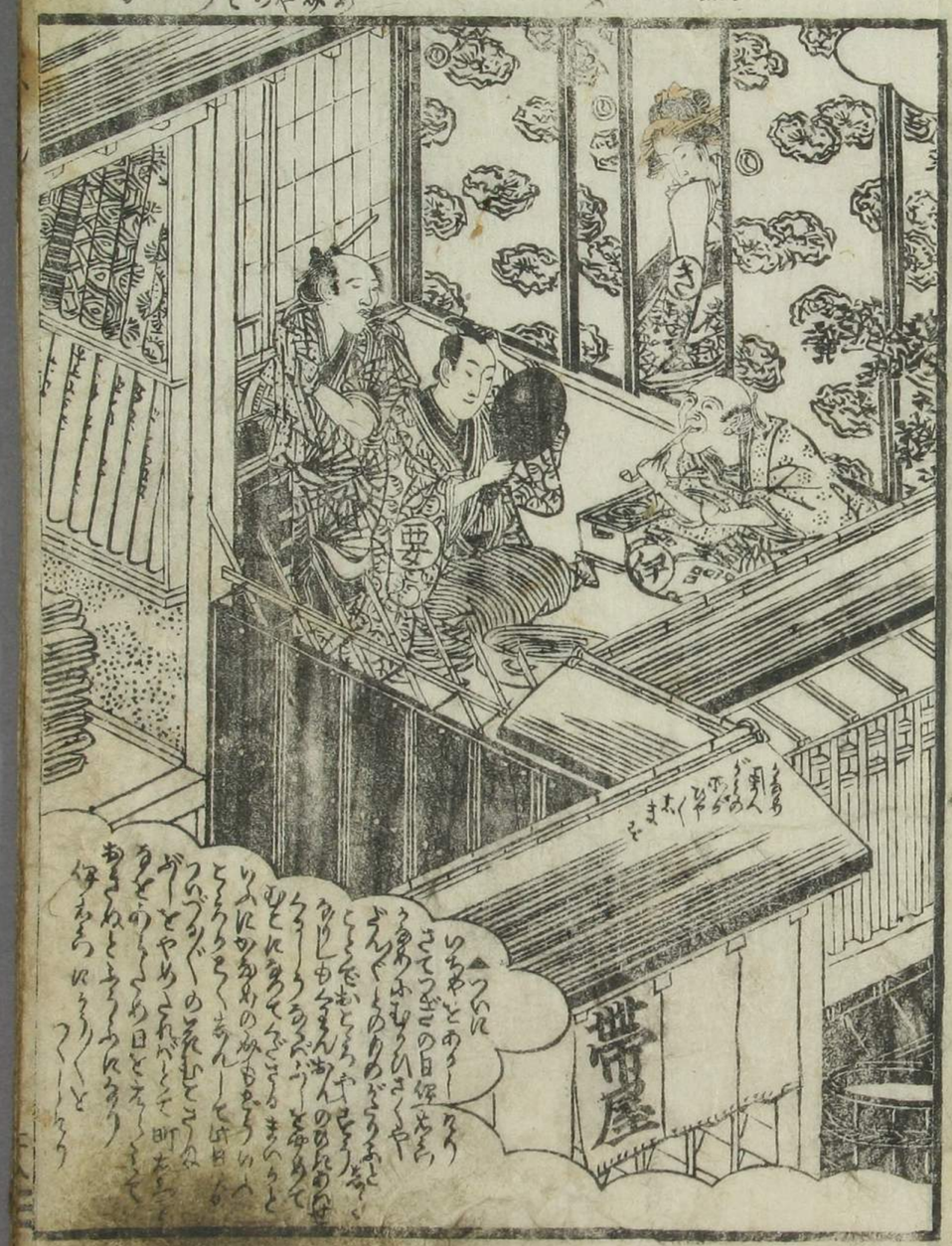
観世音菩薩
観世音菩薩

入口

奉納
奉納
銅
十貫文

納
二十両
天蓋一對
獻上
滑稽

帯屋



評曰

粟田要人助主人の家にうてかおりぬりんもの
そこのせんぎとりひことさーあやのこたと
うこんとするたいこうとかくーヲにてもびあ
びあ屋ろむことあるしいこうろくびこうの
いろにさんおがれざりしもんているれいおびな
びあ屋のむすめおうれんすすこにまうひーしも
とひがこーおりふにとれるくばがもん初んきこんぎきをうかんにわけりてばんせのあく
こうとひれかあるがこうとものこうきせーゆへあるこーおそうこーく

牛
長

牛

おんとまこ
このいりくそひ
げちよりこしだれ
せんさうまんば長をちひくらふたのかよりん
むしるうばとちう
うるそのあくえんのこのさんはひ
うこのいりのたまりんとあむおれにたあのまちえん
のとうあびやにくりうあーもーのおこあはまうごろう
りれてうれーとくあのとのりぶうひとよのあくたんよ
くりめーりのくりりのちのうたをとのこーとそろう
くりりびやんをもうそをたうつまおきんいあーめうくと
ちうして京へくらんれうえうびーくーくうとびられこれこうろ
あびんでしいーびのくのたにこれをちのりのとみをまやけりうをそのこる
んあきどうさびれとあーとりのそうろうきんすとこそう
ちーよとりいきんーくぐんりんーのたくりりのりいこされ
まちーりのりのりーこうりりり

長

たゝ
宗

長
あの
ゆきくに
よくのこと
あれやとうふて
ぞうまあ
いりんが
あらうぞや
こちの人
おそんさんへ
いろんして
ぐさんせ

大
十

文化六年己巳 新刻繪草紙

前之丞 全部山東京傳作
芹行記 勸善辻説 歌川豊国画

因縁物語 躾草娘遊訓 全部山東京山作 八冊歌川豊国画

五大力后編 其後日三伍大切 全部山東京山作 五冊歌川国貞画

戀女房鞠討双六 全部姥 尉輔作 六冊歌川豊国画

播州鹿児川教信士由来 敵討髮高砂 全部姥 尉輔作 六冊歌川国貞画

楚満物語儒家花 合巻三冊 古人楚満人作 歌川国貞画

右の草紙を出板賣出し 江戸高砂町 中ハ市兵衛後ろ 地本問屋 伊賀屋勘右衛門板